

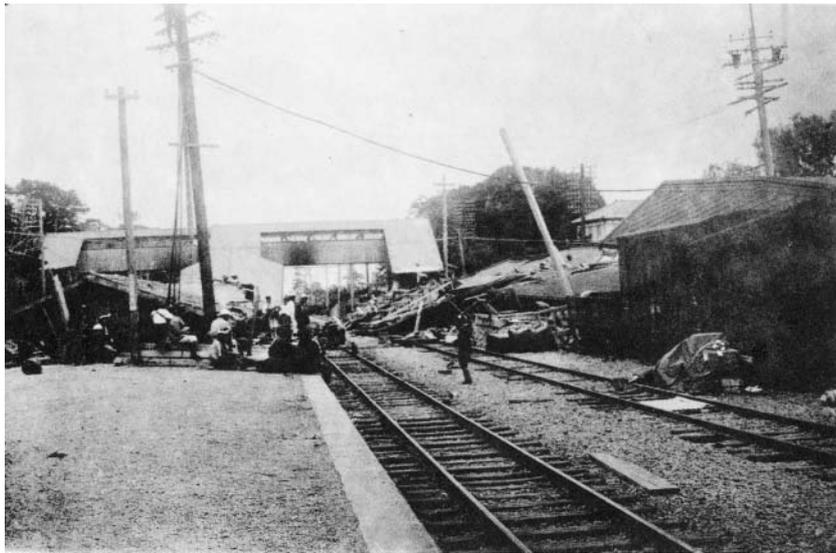
9月1日は「防災の日」

大正12年(1923)9月1日に発生した関東大震災は、死者・行方不明者14万人以上という被害者を出しましたが、その多くが地震後の火災による被害だったと言われています。

火災を発見したときは、「火事だ」と大声を出して周りの人に知らせ、すぐに119番通報を

するようにならねばなりません。また、初期消火で災害を未然に防ぐこともできますので、近くにある消火器やバケツ等で消火活動を行いましょう。

また、地域等で行われる防災訓練にも積極的に参加しましょう。



▲関東大震災で倒壊した大磯駅『震災記録』大磯警察署 1924(大正13)年刊所収

備蓄品の用意を

大地震等の災害が発生すると、救助及び救援がすぐに来れない状況となります。最低でも3日間は、自力で生活できるだけの備えをしておきましょう。



また、年に1度は備蓄品の点検を行い、賞味期限や使用期限等があるものは、定期的に新しいものと交換しましょう。

ブロック塀の点検を

家のブロック塀がひび割れていたり、傾いていたりしていると、地震発生の際、崩れて付近を通行する人に対して凶器になる場合があります。とても危険です。早急に点検や補強、修理して被害を出さないようにしましょう。



地震に対する事前対策を

就寝中に家具が体の上に倒れないような配置をしたり、L字型金具や重ね留め金具で家具を固定しましょう。食器や本などは、重いものを下に、軽いものを上に置く等配置に心がけ、タンス等の上には角の鋭いものや重たいもの等は置かないようにしましょう。

また、通路や出入口には荷物は置かず、窓ガラスには飛散防止フィルムを貼ると被害が少なくなります。

自分の身は自分で守ろう



災害時に家族などを助けるためには、まず自分の身を守る必要があります。地震の揺れを感じたら、慌てずテーブルや机の下に身を隠し、身の安全を確保しましょう。ヘルメットや防災ずきん、座布団などを用意しておくことで安心です。

地震が起きたら

「地震発生」
地震が起きたら、家具の転倒や落下物に注意し、落ち着いて自分の身を守りましょう。最初の大きな揺れは約1分間です。家の中にいる場合は、火の始末を素早く行い、ドアや窓を開け、逃げ道を確認しましょう。



「発生後1〜2分」

火元を確認し、出火していたら初期消火を行い、ガスの元栓をしめ、コンセントなども落ち着いて処理しましょう。大きな地震をいきなり感じた時は、むやみに動く危険ですので、ある程度揺れがおさまってから行動しましょう。

「発生後3分〜」

隣近所の人へ声をかけたり、近所で出火していたら初期消火を行いましょう。

「発生後5分〜」

ラジオなどで情報を確認し、避難後は協力して消火・救出・救護活動を行いましょう。また、余震にも注意しましょう。